

2023Japan National Team Report ” コーチ ”



報告者氏名	飯島 洋一
大会名	THE 2023 OPTIMIST ASIAN & OCEANIAN CHAMPIONSHIP
開催地	Abu Dhabi, UAE
大会期間	October 29 - November 5

- 帰国後1ヶ月以内に、JODA チームでまとめた上、海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について
 1. このレポートを補足する資料として必要です(文中に貼り付けて下さい)
 2. 他国OP艇を接近して撮影する際には、必ず相手国の選手、コーチの了解をとって下さい

チャーター艇 メーカー	豊澄 Blue Blue	濱川 Blue Blue	須永 Blue Blue	池田 Blue Blue	白鳥 Blue Blue
	前田 Blue Blue	児島 Blue Blue	中田 Blue Blue	堀野 Winner	飯島 Winner

気象について	気温は30度を超え暑い。日本の真夏のように滝のように汗が出る状況であった。水分補給、日陰に入るなど熱中症対策が必要な状況であった。砂漠といっても現地入り前には大雨が降ったようで、レース中も嵐が来る時があるから天気予報はきちんとチェックしてほしいとのことであった。
海面(湖面)の特徴や風の傾向	フリートレースは湾の外、チームレースは湾の中と分けて行われた。 午前中は陸風、気温の上昇とともにシーブリーズが入るコンディション。 午後から吹くシーブリーズは吹き上がり、10Knot 程度。前評判では潮はないとのことであったが、レース中は最大で40m/minの潮が流れることもあった。 弱めの安定したシーブリーズあり、弱めのシーブリーズから安定したシーブリーズへの移行のコンディションあり、陸風あり、潮が強い日ありと毎日様々なコンディションでレースが行われた。
帆走指示書内容で特記事項	フリートレースに関しては特になし。 チームレース どのように行か状況を事前には全く出さず、直前に SI を出し、当日にエントリーを締め切るという普通では考えられない方法でレースを実施した。初めての OP、チームレースの常同ということで非常に驚いた。今後、常同するスタッフ陣はチームレースのエントリーや SI を出すタイミング等については十分に注意してほしい。

コーチボートについて	約6.5m、100馬力のRIBであった。台湾チームとシェア。台湾のコーチはタイ人でILCAの選手であったことから、すぐに親くなりコーチング行いやすかった。
-------------------	--



台湾チームと海上トレーニング



風待ちをする選手達



アブダビの綺麗な海



たくさんのゼネラルリコールをしました。



海外選手のダウンウインドは一枚上手でした。



潮の影響で上マークは大混戦

以下、日本チームより上位の選手、国について記入して下さい

選手の特徴、体格	思っていたよりも小柄、細身の選手が多い。50kgを超える選手はほとんどいないのではないかな？ 今回のように10Knot程度の風では50Kgを超える選手は歯が立たないと感じた。
機装品について(チャーターボート)	Boat Winner 2 割、Blue Blue8割 Mast OPTIMAX MK4, OPTIMAX MK3, SPLIT OPTIMAX MK3,MK3 Flex Boom MK4 程度はよくワールドで使用したものであると思われる。(計測ステッカーが貼ってあった。)
セッティング等	CD セール、One セールの使用率が高い。 セッティングについては若い選手が多いためか必ずしも適切に行われてはいない。
海上での練習方法	特に特記事項なし。
セーリング技術	体を使って船をコントロールする技術が優れている。テクニック的には ILCA で行われていることと同じ。 ダウンウインドに関しては今回のコンディションでは日本の選手よりもセーリングの基礎(船のパワーを感じてバウのアングルを変える)をきちんと教えられているように感じた。
戦術、戦略など	トップ10の選手は毎日変わるコンディションにきちんとストラテジーを合わせてコースを引いていた。
日本選手が劣っていること	・ストラテジー レース経験が少ないため様々な状況に合わせてたコース選択ができない。 ・ダウンウインドテクニック ただ、アンヒールさせて真っ直ぐ走るだけになっている。 ダウンウインドの知識の不足 ・スタートテクニック スタート時のボートコントロール スタートの考え方 ・チューニング、セッティング なぜそうなのか？がわからず、ただチューニングデータに合わせているだけ。 もっと自由に、コンディションに、そしてフィーリングにセッティングを合わせて変えていくべき。 もっと自分の感覚を研ぎ澄まし、感覚を頼りにセッティングを行うべき。 必ずしもトップセーラーはメジャーでレーキを測ることをしてはいない。
日本選手が勝っていること	このコンディションでは見つけることは難しい。

日本チームとしての課題	毎年チーム、レベル、が違う。また、人数も 10 名と多いことからチームとしてまとめることは難しいと感じた。まとまるところはまとまる。離れるところは離れる。といったメリハリが必要。
JODA への要望	・選考レース IODA のレース指針では 25Knot 以上のレースではレースをしないとあった。 サバイバルレースで走れる選手を育てたいのはわかるが、世界選手権で行われない風域でレースを実施して重量級の選手が代表選手になってしまう。重量級の選手を海外に送っても選手の今後のためにならない。 選考レースは IODA のレース指針に従って行ききちんと OP にあった体型の選手を選考するべき。 そして大きな選手は ILCA4 でどんどん世界にチャレンジをするべき。 その点を踏まえて選考レース実施。ILCA への移行を推奨するべき。
その他	OP の海外遠征はセーリング技術指導、コンディショニング、海外交流など様々なことを学ぶ場として、海外レースの経験の多い役員を入れて、成績にとらわれず選手の今後につながるような学びの場としてほしい。



選手のコンディションを整える朝のストレッチ



レース後のミーティング



記念撮影

ご協力ありがとうございました

JODA 海外派遣委員会